

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	電子線ビームによるハイパー原子核 分光研究の展開	研究代表者名	橋本 治
-------	-----------------------------	--------	------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア 高い
- イ やや高い
- ウ やや低い
- エ 低い

意見：
J-PARC との関連でもこの研究が予定通りの
成果を挙げることが重要と考える。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア 予定以上に進展している
- イ 概ね予定どおり進展している
- ウ やや遅れている
- エ 遅れている

意見：
スペクトロメータの建設、データ収集等々概
ね予定通りに進んでいると見受けられる。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア 研究経費
- イ 設 備
- ウ 組 織
- エ そ の 他

意見：
当初の目的性能である 400keV に達するため
にはさらなる努力が必要であるが、それは可
能と考えられる。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア 期待以上の成果をあげている
- イ 概ね期待された成果をあげている
- ウ 期待された成果をあげつつある
- エ 期待された成果はあがっていない

意見：
現在は主要な装置を作っている段階である。
CH₂、C、Li 等を標的としたデータ収集は
進んでいる。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア (×) 有機的に連携が保たれている

イ () あまり有機的に連携が保たれていない

ウ () その他

意見 :

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア (×) 効率的・効果的に使用されている

イ () あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ () その他

意見 :

6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
×	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見 :

原子核の最も中心部まで高い分解能で見ることができる唯一の方法である。目標性能の 400KeV は是非実現して頂きたい。第一段階はほぼ予定通り進んでいると思われる。科学としてユニークな成果を出すには、今後精力的にデータを収集し詳細な分光を展開する必要がある。今後の発展が期待されるが、研究の位置づけと意義がもう少し明確に見えるような説明があるとよい。